

平成 30 年度医学研究科修士課程修了見込者用

修士論文提出等マニュアル

医学系事務部総務課医学院教務担当

修士論文提出手続き等

1. 修士論文提出～学位授与までの日程

- (1) 修士論文及び各種書類の提出
- (2) 医学院教務委員会（審査委員選出）
- (3) 公開発表
- (4) 医学院教務委員会（修了審査）
- (5) 最終審査教授会
- (6) 学位記授与

修了期 ^{※1}	修士論文等提出期限	医学院教務委員会	公開発表	医学院教務委員会	最終審査教授会	学位記授与日
6月修了	3月16日(金)	4月上旬	4月6日(金)～27日(金)	5月下旬	5月31日(木)	6月29日(金)
9月修了	6月15日(金)	6月下旬	7月6日(金)～27日(金) 別途照会予定 ^{※2}	8月中旬	8月23日(木)	9月25日(火)
12月修了	9月21日(金)	9月下旬	10月5日(金)～26日(金)	11月中旬	11月29日(木)	12月25日(火)
3月修了	1月11日(金)	1月中旬	1月31日(木)～2月6日(水) 別途照会予定 ^{※3}	2月中旬	2月21日(木)	3月25日(月)

- ※1 6月又は12月修了希望者は、修士論文等提出期限前に必ず医学院教務担当へ連絡すること。
 ※2 5月頃 医学院教務担当より指導教員へ別途日程照会予定（10月入学者のみ）
 ※3 11月頃 ” ” （4月入学者のみ）

2. 修士論文関係書類等

- (1) 提出先：医学系事務部総務課医学院教務担当
- (2) 修士論文等提出期限までに提出する書類
 - 修士論文提出に係る指導教員承認書（様式1）…………… 1部
 - 修士論文…………… 4部
 - 修士論文内容の要旨（様式3）…………… 5部

<留意事項>

- ① 修士論文の作成方法については、p13-17の「修士論文作成の手引き」を参照すること。
- ② **修士論文の表紙（様式2）**については、修士論文等提出期限までに別途医学院教務担当（d-tanto@med.hokudai.ac.jp）宛メール添付にて送付すること。
- ③ 公開発表終了後、修士論文に修正が生じた場合は、修正後の修士論文を**簡易製本で1部**、次の期日までに医学院教務担当へ提出すること。

修了期	6月修了	9月修了	12月修了	3月修了
提出期限	5月25日(金)	8月24日(金)	11月22日(木)	2月28日(木)

- (3) 公開発表における資料
 - 配付用資料及び提示用資料（パワーポイント等による投影用）について、外国人留学生の「公開発表演習（共通コア科目）」履修に配慮し、**英文又は和文・英文併記により作成すること。**
 - なお、資料の様式は任意とします。
- (4) 公開発表終了後、審査員主査が提出する書類（別途医学院教務担当から通知）
 - ・修士学位論文審査報告書（様式4）
 - ・修士学位論文審査の概要（様式5）

3. 修士論文提出・審査等について

修士論文の提出及び審査等に関しては、「医学研究科修士論文提出・審査要項 (p3-8)」として順次記載してあるので、**必ず熟読**の上、手続き等について遺漏のないよう留意すること。

4. その他

各種様式については、次のアドレスの「各種様式」からダウンロード願います。

<https://www.med.hokudai.ac.jp/graduate/yoshiki.html>

【参考】 北海道大学大学院医学院ホームページ (<https://www.med.hokudai.ac.jp/>)
ホーム>>医学院>>在学生・修了生の方へ>>各種様式>>学位論文関係>>修士課程

なお、各種様式の記入例については、本マニュアル「各様式記入例 (p9-12)」として掲載しているので、参照の上、作成すること。



各種様式

HOME > 医学院 > 各種様式

学位論文関係 | 履修関係 | 学生異動関係・その他

学位論文関係

■ 修士課程

平成29年度医学研究科修士課程修了見込者用修士論文提出等マニュアル (平成29年5月10日掲載)	PDF
各種様式 (平成30年1月24日更新)	MS Word
平成29年度医学院修士課程修了見込者用修士論文提出等マニュアル (平成29年10月25日掲載)	PDF
各種様式 (平成29年10月25日掲載)	MS Word
平成29年度医学院修士課程(公衆衛生学コース(1年コース))修了見込者用特定課題の研究成果提出等マニュアル (平成30年1月24日更新)	PDF
各種様式 (平成30年1月24日更新)	MS Word

医学研究科修士論文提出・審査要項

平成19年 3 月 8 日
研究科教授会決定

本研究科規程第 6 条の規定における修士論文（以下「修士論文」という。）の提出及び審査に関しては、関係諸規程に定めるもののほか、この要項の定めるところによる。

1. 修士論文提出に係る提出書類

修士論文の審査を受けようとする者は、指導教員の承認を受けて修士論文及び修士論文内容の要旨を提出する。

2. 修士論文等の提出期限

修士論文等の提出期限は、北海道大学学位規程の運用に関する細則第 2 条に規定されている期日ごとに研究科長の指定する期日までとする。

また、本研究科規程第 6 条ただし書きによる短縮修了の審査を受けようとする場合の修士論文の提出期限についても同様とする。

3. 修士論文等の提出部数

修士論文提出者は、指導教員の承認書（様式 1）を添えて次の部数を提出する。

- (1) 修士論文 4 部（正本 1 部，副本 3 部）
- (2) 修士論文内容の要旨 5 部

4. 修士論文等の体裁

修士論文等の体裁は、次のとおりとする。

- (1) 修士論文は、日本文又は英文とし、A 4 判縦長に表紙（様式 2）を付け、左綴じとする。
- (2) 修士論文内容の要旨（様式 3）は、3,000 字以内、英文の場合は 1,200 ワード以内とする。
- (3) 修士論文本文及び修士論文内容の要旨は、パソコン又はワードプロセッサ等により作成するものとし、活字の大きさは、12ポイント程度で 1 ページあたり 40 字／40 行を目安とし、ページを下中央に付す。

5. 審査委員

修士論文の審査委員は、3 名以上（主査 1 名及び副査 2 名以上）とし、主査は、論文提出者が所属する分野の教授又は学位論文指導教員資格を有している准教授をもって充

て、副査は、主査と異なる本研究科の基幹分野、協力講座、協力分野、連携分野及び北海道大学病院（以下「分野等」という。）の教授、准教授又は講師をもって充てる。なお、病院の教員については、本研究科を担当する者に限る。

また、審査をするうえで必要と認めるときは、上記の審査委員に次に掲げる者を加えることができる。

- (1) 連携講座（分野）の客員教授及び客員准教授
- (2) 本研究科寄附講座の特任教授及び特任准教授
- (3) 本学の他研究科等の教授、准教授又は講師
- (4) 他大学の大学院又は研究所等の教授、准教授又は講師
- (5) 教授会が特に認めた者

なお、審査委員は、指導教員が推薦する審査委員候補者を参考に、研究科教務委員会が選出し、研究科教授会に報告する。

6. 修士論文発表会及び審査

修士論文提出者は、修士論文審査のため、公開の論文発表会において修士論文の発表を行う。論文発表会の日時は、研究科長が指定する。

審査委員は、論文発表会において、当該発表者の司会進行を担当し、修士論文を審査するうえで必要と認めたときは、論文発表会以外においても、修士論文提出者に修士論文に係る口頭試問を課すことができる。

7. 審査報告

審査委員は、論文発表会終了後、協議のうえ、審査報告書（様式4）に審査の概要（様式5）を添付し、研究科長に提出する。

8. 合否判定等

研究科長は、審査委員から提出された審査報告書とともに、修士論文の合否の判定を研究科教務委員会へ付託する。

研究科教務委員会は、付託された修士論文の合否の判定を行い、研究科長に報告する。

上記の報告をうけて研究科長は、修士課程修了の可否を判定する研究科教授会において、当該修了予定者の修得単位と合わせて報告する。

9. 修士論文の保存

修士課程修了者の修士論文は、医学研究科・医学部図書館で保存し、請求に応じて閲覧に供する。

10. 短縮修了

課程修了に必要な単位をすべて修得し、かつ必要な研究指導を受けた上で、修士論文及び第一著者として掲載又は掲載されることが確約されている1編以上の基礎論文（Thomson Reuters社 Journal Citation Reportsのインパクトファクターが附与されている英文雑誌に掲載されたもの）を提出した者で研究科教務委員会資格審査専門委員会が極めて優れた研究業績を上げたと認めた場合は、1年以上の在学期間で修了することができる。ただし、基礎論文は本研究科修士課程在学中に行われた研究内容を主体としていること。

附 記

この要項は、平成19年4月1日から実施する。

なお、平成15年2月13日研究科教授会決定の「医科学専攻における修士論文提出及び審査に関する申合せは、平成19年3月31日付けで廃止する。

附 記

この要項は、平成22年7月8日から実施する。

附 記

この要項は、平成23年4月1日から実施する。

附 記

この要項は、平成27年4月1日から実施する。

(様式1)

平成 年 月 日

医学研究科長 殿

指導教員

㊞

修士論文提出に係る指導教員承認書

別添の修士論文につきましては、下記学生に対して私が研究指導の上、修士学位論文として提出することを承認したものであります。

記

修士論文提出者

学生番号

氏 名

修士論文題名

「

」

(様式2)

平成 年 月

北海道大学大学院医学研究科

医科学専攻修士課程

修士学位論文

論文題名

「

」

提出者：

所属分野：

指導教員：

(様式3)

修 士 論 文 内 容 の 要 旨

修士の専攻分野の名称 修 士 (医科学) 氏名

修士学位論文題名

「

」

各様式記入例

●●●修士論文作成の手引き●●●

修士論文とは

- 1) 修士論文の特徴は、申請者が研究を遂行するに当たって直面した様々な困難にどのように立ち向かい、論理的な結論に達したかという思考過程を重視する点にあります。従って、その思考過程とそれにより生じた結果を記載することが重要です。
- 2) 複数のテーマが存在する場合には、それぞれのテーマがどのように関連しているかを論理的に説明して頂く必要があります。
- 3) 基礎的事項の説明、詳細な研究背景、基礎実験やパイロット実験の結果（例えば結果がネガティブであっても構わない）などが必ず記載されていなければなりません。
- 4) 本文は、和文または欧文は問いません。ただし、いずれかで統一してください。
- 5) 本文が和文の場合は和文の主題目を、本文が欧文の場合は欧文の主題目を付けてください。なお、主題目が欧文の場合は和文の副題目を括弧内に記載してください。

例：【本文が和文の場合】

○○○における○○した○○に関する研究

【本文が欧文の場合】

Studies on ○○○ ○○ at the ○○ ○○ in ○○

(○○○における○○した○○に関する研究)

修士論文の構成

次の A) ~ M) の項目から構成されます。

ページ番号は下中央に付すこととし、「発表論文目録および学会発表目録」を第 1 ページとして、以下順番に付けて下さい。本文は、1 ページ 40 行、1 行 40 字を目安とし、12 ポイント程度の明朝体で作成して下さい。

A) 表紙

様式2を記入例（本マニュアル p11）に従い作成の上，表紙として下さい。

平成 年 月 北海道大学大学院医学研究科 医科学専攻修士課程 修士学位論文
論文題名 「□□□□□□□□□□□□□□□□」 (△△△△△△△△△△△△△△△△△)
提出者： ○ ○ ○ ○
所属分野： ▽▽▽▽▽分野
指導教員： ○ ○ ○ ○

論文題名が英文の場合は，()
書きで和訳をつけること。

B) 目次

C)~M)の各項目の名称を記載するとともに，それぞれが始まるページ数を記載して下さい。F)【注意】に示したように章立てする場合は，章毎のサブタイトルも含めてください。

* 作成例 *

目 次	
発表論文目録および学会発表目録	1 頁
要旨	○頁
略語表	○頁
緒言	○頁
方法	○頁
結果	○頁
考察	○頁
結論	○頁
謝辞	○頁
利益相反.....	○頁
引用文献	○頁

C) 発表論文目録および学会発表目録

論文については、著者名・論文タイトル・雑誌名・発表年（掲載済みの場合には、巻数・ページなども含む）を記載するとともに、アクセプトの場合は発表予定などを記載して下さい。また、投稿中の場合はその旨を記載して下さい。学会発表は、全国規模の学会と国際学会での発表に限り、発表者名・演題名・学会名・日時・場所などを記載して下さい。

* 作成例 *

発表論文目録および学会発表目録

本研究の一部は以下の論文に発表した。

1. ○○○○（著者名）共著の場合は全員の氏名を記載
○○○○○○○○○○に関する研究（論文タイトル）
学術雑誌名，巻数・ページ，（発表年）
2. ○○○○（著者名）
○○○○○○○○○○に関する一考察（論文タイトル）
学術雑誌名，巻数・ページ，（発表年）
3. ○○○○（著者名）
○○○○○○に関する○○学的研究（論文タイトル）
学術雑誌名，巻数・ページ，（発表年）

本研究の一部は以下の学会に発表した。

1. ○○○○（発表者名）共同発表の場合は全員の氏名を記載
○○○○○○○○○○に関する研究（演題名）
学会名（第○回○○○学会），日時・場所
2. ○○○○（発表者名）
○○○○○○○○○○に関する一考察（演題名）
学会名（第○回○○○学会），日時・場所
3. ○○○○（発表者名）
○○○○○○○○○○に関する○○学的研究（演題名）
学会名（第○回○○○学会），日時・場所

D) 要旨

1. 本文は、日本語の場合、2,500字～3,000字程度、英語の場合は、1,000～1,200語にまとめる。

F) 緒言

①論文の背景（本研究の重要性・意義，テーマに関連した事項の説明など），②テーマに関連して，何がわかっていて何がわかっていないのか，③前2項を踏まえて，この研究では何を明らかにしようとするのか，などの点を中心に詳細に記載して下さい。

[注意]

テーマが複数存在していて，各テーマについて独立して記載する必要がある場合には，全体の緒言を記載した後，第一章，第二章，……のように分けて，各章に次の項目を設定して下さい。①章のタイトル，②緒言（この章に関連したもの），③方法，④結果，⑤考察。第二章以下では，前の章の研究との関連を論理的に説明して下さい。

G) 方法

この論文に記載されている研究方法を読めば，研究・実験が再現できる程度に詳しく，必要に応じて図，表，写真等を用いて詳しく記載して下さい。他の論文やマニュアルを参照のことという記載は原則として不可です。使用した実験機械・機器，試薬などはメーカー等も明記して下さい。

なお，研究のために実施した実験や遺伝子組換え実験などについては，倫理審査を受けた場合はその結果とともに，各種の規程・指針等（「人を対象とした医学系研究に関する倫理指針」「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」「北海道大学動物実験に関する規程」，「北海道大学遺伝子組換え実験等安全管理規定」など）に従って実施したことを明記して下さい。また，人を対象として実施した研究に関しては，説明同意に関する事項もここに記載してください。

H) 結果

サブタイトルをつけて，いくつかの内容に分けて述べて下さい。使用する図の解像度は，白黒 600dpi 以上，カラー 300dpi 以上として下さい。論文中の図・表については本文中の当該事項を記述している部分に掲載し，巻末にまとめて載せることはしないでください。また，図では下，表では上に，図表番号及び説明を加えて下さい。

[注意]

大学院在籍中に行った研究結果（基礎実験，パイロット実験，スクリーニング実験など直接論旨に関わっていないものも含む）について記述して下さい。

作成例

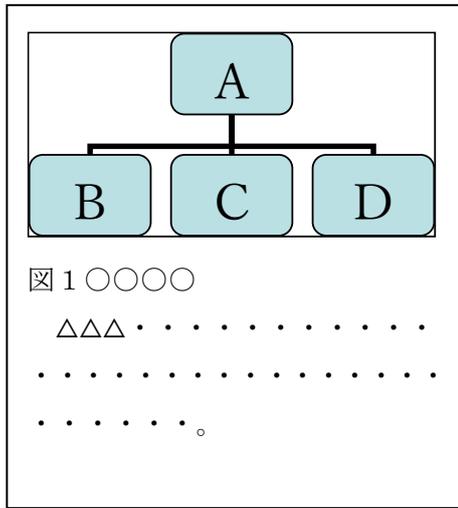


表 1 ○○○○

A	B	C	D
a			
b			
c			
d			
e			
f			

D) 考察

考察では、本研究で得られた新知見および新知見に至った根拠、先行研究との比較等を論理的に論じて下さい。また、問題点などについても論じて下さい。

J) 結論

①本研究全体から得られた新知見を箇条書きにまとめて下さい。さらに、②新知見の意義、③本研究で得られた新知見から今後どのような研究が展開されるか、④今後の課題、などを1～2ページ程度で簡潔に述べて下さい。

K) 謝辞

修士論文に、自身が国や公立の研究機関から研究費を受けて行った研究成果が含まれる場合は、作成例のように記載して下さい。

作成例

日本語：本研究（の一部）は、△△△△△△奨励費 JP12345678 の助成を受けたものである。
英語：This work was supported by grant JP12345678 from △△△△△△.

L) 利益相反

利益相反の開示の目的は、利益相反を加味して結果を解釈することであり、論文審査に公平な判断を行うことです。研究にバイアスをもたらす可能性のあるすべての利害関係（金銭的・個人的関係）について記載する必要があります。例えば、企業等からの研究費、寄付金、物品の提供などについて記載してください。

* 作成例 *

【利益相反がない場合】

日本語：開示すべき利益相反状態はない。

英語：The author declares no conflict of interest.

【利益相反がある場合】

(例 1)

日本語：この研究の○%は×××からの支援により行った。

英語：About ○% of this study was supported by ×××.

(例 2) 日本語：この研究で使用した機器(△△△)は×××から提供を受けたものである。

英語：The author has received equipment (△△△) for research from ×××.

M) 引用文献

引用文献は、ハーバード形式に準じてください。すなわち、引用文献には番号を付さずハーバード形式に準じて本文中に引用元を記載して下さい。文献リストへの記載は、雑誌“Cell”に準じてください。引用文献が未掲載、投稿中、要約、私信などの場合は文献リストには記載せず、本文中にのみ記載してください。なお、日本語の文献については、英語の文献と区別することなく、同じように取り扱って下さい。

文献リストでは、著者の氏名順(英語の場合はアルファベット、日本語の場合は五十音順)、発行年順としてください。氏名及び発行年が同一の場合は、発行年の西暦のあとに「XXXXa」, 「XXXXb」などとアルファベットを付して区別してください。また、日本語の文献は英語の文献のあとに続けてください。

* 作成例 *

【本文中の文献引用】

・・・(本文)・・・と報告されている(Masuho et al., 2015a ; Jiao and Jones, 2015)。
種々のワクチンによる脳からのタウまたはAβペプチドの除去は・・・(本文)・・・

【文献リスト（巻末）】

(英語の文献は著者名のアルファベット順・発行年順に記載する)

Cleary, J.P., Yin, D., Reuss, L., Dutton, G.J., Sondheimer, N., Lindquist, S., King, S.M., Cowan, W.M., Jessell, T.M., Zipursky, S.L. et al. (2005). Natural oligomers of the amyloid- protein specifically disrupt cognitive function. *Nat. Neurosci.* 8, 79-84. ※1

Dutton, G.J. (1980). *Glucuronidation of Drugs and other Compounds*. (Boca Raton: CRC Press). ※2

Masuho, I., Ostrovskaya, O., Lramer, G.M., Jones, C.D., Xie, K., and Martemyanov, K.A. (2015a). Distinct profiles of functional scrimination among G proteins determine the actions of G protein-coupled receptors. *Sci. Signal.* 8, 118-123 ※3

Masuho, I., Martemyanov, K.A., and Lambert, N.A. (2015b). Monitoring G protein activations in cells with BRET. *Methods Mol. Biol.* 1335, 107 -113. ※3

Reuss, L. (2000). Basic mechanisms of ion transport. In *The Kidney: Physiology and Pathophysiology*, Seldin, D., Giebisch, G., eds. (Baltimore, U.S.A.: Lippincott Williams & Wilkins,), pp. 85-106. ※4

(日本語の文献は英語の文献の後に、著者名の五十音順・発行年順に記載する)

北野大地, 山田太郎, 本田一郎. (2005). アルツハイマー病の新しい治療法. *日本薬理学雑誌* 125, 178-84

※1 引用元が雑誌・定期刊行物などの場合

※2 引用元が単行本全体の場合の記載方法

(著者名. (発行年). 本のタイトル. (所在地: 出版社).)

※3 著者名と発行年が同一の場合の記載方法

※4 引用元が単行本の場合の記載方法

著者名. (発行年). 章のタイトル. In 本のタイトル, 編集者名, ed. (所在地, 出版社), 開始頁-終了頁.

○著者が10名以下の場合には著者名を全員記載し(例: Masuho, I., Ostrovskaya, O., Lramer, G.M., Jones, C.D., Xie, K., and Martemyanov, K.A.), 11名以上の場合は10名までを記載して, et al. をつける(例: Cleary, J.P., Yin, D., Reuss, L., Dutton, G.J., Sondheimer, N., Lindquist, S., King, S.M., Cowan, W.M., Jessell, T.M., Zipursky, S.L. et al.)

- 掲載年は著者名の後に記載する。例：Yin, D., and Tuthill, D. (2000).
- 雑誌名は **Pub Med** の記載形式に従う。単語が省略形の場合はその後にピリオドを打つが、省略形でない場合はピリオドは不要。例：J. Exp. Med.
- 巻, 最初のページ-最後のページの順に表記する。なお, 巻の後ろにコンマを置き, 号の記載は不要。最初と最後のページ数は省略せずに記す。
例：191, 1423-1428.
- 「,doi～」や「PMID」などの情報の記載は不要。
- Web サイトからの引用の場合は, その **URL** とアクセス日を記載すること。なお, 引用物の著者名, タイトル, 掲載年に関する情報があれば, 可能な限り学術雑誌の論文引用に従って記載することが望ましい。